

小中学生の部

佳作

優しさあふれるおばあちゃんの手料理

長澤 周峰

長野県中野市立豊田中学校

私がおばあちゃんの手料理でよく憶えているのは、毎年秋に行われる小学校の運動会のお弁当だ。

当時の運動会は、一日がかりの大きなイベントで、お昼ごはんは家族ごとに集まって食べていた。そんな運動会の日のお昼ごはンは、おばあちゃんがつくった、重箱に入った豪華なお弁当。それは、午前中がんばった私へのごほうびだった。

重箱の一段目には、たくさんの種類のおかずが入っていて、思わず手をのぼしてしまうほど彩りが鮮やかだ。しかも運動してきた私のことも考え、栄養バランスのよい健康的なおかずだった。

二段面には、ぎっしりとおにぎりが詰まっていて、年によって栗ごはんだったり、いなりずしだったり、おこわだったり、バリエーションが豊富。今年は何のおにぎりだろうと、考えるのが毎年の楽しみだった。しかし、食べざかりだった私や、家族全員が満足する量のおにぎりを、全ておばあちゃん一人でにぎってくれたのだ。とても大変だったろうと思う。

そして、お弁当を食べたから、午後もがんばるぞという気持ちになるのだった。

おばあちゃんの手料理は、とてもおいしい。それは、食べる人のことを考えているからだと思う。そして、そこには深い優しさがある。

私が小学校5年生になったときから、小学校の統合にあわせて、運動会は午前中だけに短縮されてしまい、おばあちゃんの手料理を食べる機会が減ってしまった。

しかし、あの優しさのこもったおばあちゃんの手料理は、この先もずっと憶えているだろう。もう運動会のお弁当を食べる機会がないことは寂しいが、今度は私がその優しさをおばあちゃんに返す番だ。